

④自閉症者援助技術

課題:自閉症における問題行動を「冰山モデルの概観」を基本として、問題解決に至るプロセスの現状・仮説・結果にまとめ論述しなさい。

児童デイサービスや、知的障害児通園施設での相談内容は、激しいかんしゃくや、切り替えの悪さ、自傷行為、他害行為がひどいということが多し。また、母親が周囲の人からしつけができていないと責められ、子育てに自信を無くしている場合もある。

そんな悩みを抱えた親子に寄り添い、一緒に子育てを考えていく第一歩として、冰山モデルを紹介することが多い。それは、冰山モデルが解りやすいのと同時に、自分の子育てが悪かったわけではない、ということをよく伝えるからである。

最初に冰山モデルの絵を見てもらい、困った行動は、見えている氷山の一角であること、水面下の見えていないところに、実は大きな問題がかくれていることを伝える。そして保護者にとって「困った行動」というのは、実は、子どもが困っていて「わからないよ、助けて」ということを発信している「サイン」だということを知らせて理解してもらおう。

子どもは、わざと大人を困らせてやろうとしているわけではなく、むしろ助けを求めているのだとわかると、なぜその行動が現れるのか、何に困っているのかを考えていくことになる。

問題行動に対して、それが「どうしたら無くなるのか」から「なぜそうするのか」と発想の転換をするということである。つまり外から見

える行動(冰山の見えている所)に対応するのではなく、外から見えにくい障害特性(水面下の大きな氷)を理解し、「なぜその行動が起きるのか」という視点から対応を考えるということである。

支援に至るまでのプロセスは、評価 ⇒ 分析 ⇒ 支援 ⇒ 再評価、再分析 ⇒ 再支援である。

評価は、問題行動が「いつ」「どこで」「誰と何をしていた」「どんな問題行動があったか」「周囲はどうかかわったか」「その結果どうなったか」を客観的に記憶にとることでなされる。

次にこの評価をもとになぜその行動が起きるのかを分析する。分析は障害特性や子どもの理解のレベルなども考えに入れながら行う。この時注意しなければならないのは、分析者自身の立場から捉えるのではなく、その子どもの立場から見て、「何がわからないのか」「混乱しているのか」「不安を感じているのか」「何を伝えたいのか」「そうすることによって何を得ているのか」ということを分析するのである。

分析ができれば、支援の計画を立てる。この時、言葉の指示よりも視覚的に提示した方がわかりやすい、という特性を認識して考えることが大事である。支援は一回すれば終わるものではなく、一定期間の後に、原因に対する仮

説の検証、目標の再検討、支援方法の再検討と修正をし、再実施をしていく。

実例として、親子通園クラスの3歳児男児のケースをあげる。このケースの問題行動は、お片付けの時間になると泣いて暴れ、おもちゃを投げるということであった。評価は、

- お片付けが始まって遊んでいる
- 母が手に持っているおもちゃを取ろうとすると泣き、投げる
- そばにあるおもちゃを投げる
- 母が「投げたらダメ」と叱る
- ひっくり返って泣く。
- 母が抱いてなだめる

ということで、これを基に分析した結果、

- お片付けの意味が解らず、何をどうしたらいいのかわからないのではないか
- 遊びを理不尽に中断されたとおもっているのではないか
- お片付けの後に、何があるかという見通しが無いため不安になるのではないか

と考えられた。

支援の方法としては、おもちゃを入れる蓋のついた箱を用意し、「お片付けだよ」という声掛けとともに、その箱を見せ「入れて」と促

し、入れたら「おしまい」と蓋を閉めて片付けるようにした。この時、他のおもちゃは、先に片付けて周りにおもちゃがないようにして、子どもが手に持っているおもちゃだけを箱に入れるようにした。そして、入れたら「上手にお片付けができたね、すごいね」と、しっかり褒めるようにした。

お片付けの箱を見せる時や、または片付けたすぐ後に、次にする活動を写真や実物を見せて知らせ、片付いた後も楽しいことがあるということが解るようにした。

結果、周りにおもちゃが無いので、手当たり次第に投げることはなくなり、箱を見せて「入れて」と促すと、自分から入れて「おしまい」と言いながら蓋を閉め、その後の活動にもスムーズに参加し、親子で楽しむことが増えた。母もタイミングよく褒めるようになり自信に繋がった。

このケースの再評価、再分析後の支援は、手に持っているおもちゃだけでなく、手渡されたもう一つのおもちゃも箱に入れるということが目標になった。これは、問題行動からお片付けの意味がわからないで不安になっていると考え、スモールステップで、お片付けのレベルアップができることが、次の目標になったということである。

講評:•問題行動の捉え方として、「どうしたら無くなるだろう」から、「なぜそうするのか」と発想の転換をする。という記述に共感します。まさに問題解決への近道が発想を変えるといった点です。そのことにより、その人の困難さを知るための努力を支援者は行われなければなりませんし、また、分かるように正しい方法で伝えなければなりません。大変良くまとめられたレポートだと思います。